

第41回 Pitch to the Minister 懇談会 “HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

- 日時：令和元年 5月 13日（月）10：00～11：00
- 場所：中央合同庁舎 8号館 10階 平井国務大臣室
- Pitch テーマ：あらゆる人の社会参加を可能とする分身ロボットの可能性
- 招へい者：吉藤 健太郎 株式会社オリィ研究所代表取締役 CEO
- 出席者：平井国務大臣、左藤副大臣、三輪 CIO、幸田内閣府審議官、住田局長（知財）、高田局長（宇宙）、行松審議官（宇宙）、八山参事官（IT）、長谷部参事官（科技）、石井企画官（科技）、大坪次長（健康・医療）、小川次長（健康・医療）、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 吉藤代表取締役 CEO からの説明

- 自分自身の孤独なひきこもり時代の経験や、それを原動力とした人工知能や車椅子の研究を経て、もう一つの自分の身体として機能する分身ロボット「OriHime」を開発した。「OriHime」の活用によって、「体が動かない」「物理的な距離が遠い」といった障壁を取り除き、社会に出たいと願う方々の社会参加や孤独の解消を実現していきたい。
- 現在、肢体不自由患者の就職率は減少傾向であり、体が動かないと働きにくい環境といえる。ALS など重度肢体不自由患者の視線を検出し、発話できるシステム「OriHime eye」では、眼球の動きをセンシングすることで意思伝達を可能としており、そういった方々の社会参加、クリエイティブな時間の創出を支援している。
- 「OriHime」の活用事例は結婚式等の遠隔式典、学校（ひきこもり・不登校など）、スポーツ・コンサート観戦等、すでに多岐にわたっているが、その中で肉体労働も可能な120cmの「OriHime D」を開発した。その「OriHime D」を活用して「分身ロボットカフェ」の実証試験を実施したが、「OriHime D」を動かしていたのは、これまで外出が困難であった難病患者等の方々であり、社会参加が実現した。

3. 主な質疑応答・議論

- 「OriHime」は、話す・頷く・手をあげる・拍手をする・まわりの人の顔を見渡す等、さまざまなアクションが可能で、機能も実際に使うものに特化されている。会議用ツールとしても、現在さまざまなものが存在している中、それらにはあまりない機能であるとの意見があった。
- 「OriHime eye」の視線入力について質疑があった。利用者が画面に表示された文字盤に視線を向けると、画面がスクロールして選択したい文字等が寄ってきてくれる機能があり、画面の端まで視線を動かさない方々でも負担感を感じずに操作可能との説明があった。
- 「分身ロボットカフェ」の話もあったが、「OriHime」を大型化すると肉体労働が可能になる。将来的には、自分の介護を自分で行えるようになるかもしれないとの意見があった。

（了）

（速報のため事後修正の可能性あり）